

○検察事務官（事務局会計課用度係・女性）



≪検察庁の志望理由など≫

私が中学生の頃、検察庁を舞台にしたドラマが放送されており、「検察庁ってなんてカッコいいんだろう」という憧れをずっと抱いていました。次第に報道などで目にする検察庁への憧れはますます強くなり、官庁訪問の際に「性別や採用区分で業務内容に差はありますか」と質問したところ「全くありません」と即答していただいたことが決め手となり、検察庁を志望しました。

≪担当業務について≫

私は、現在、会計課用度係として、職員が使用する備品の管理や物品の調達などの業務を行っています。

大切な税金を扱う部署として、どのような物品をどのタイミングで調達したらよいか、こういった内容で契約を結べばよいかと考えることにとってもやりがいを感じています。

捜査部門とは全く異なる部署であることから、最初は課内で飛び交う単語の意味もわかりませんが、上司や同僚が親身になって相談に乗ってくれたり指導してくださるので、毎日の業務がとても楽しく充実しています。

≪皆様へのメッセージ≫

検察庁の業務は多岐にわたっています。

どの部署の業務もなくてはならないもので、全く異なる知識を求められることもあり、自己研鑽に励む日々です。

ぜひ、官庁訪問や業務説明会に参加していただき、魅力あふれる業務に触れてみてください。

また、入庁後に研修があり、時には検察官から法律科目を学ぶ機会もあるなど新採用者に対する研修プログラムがとても充実していると感じています。

≪その他参考≫

私は、現在2児（5歳の女の子と2歳の男の子）の母として、仕事と育児と家事に奮闘しています。

私は出産に当たり、ともに約2年ほど産休・育休を取得しました。

あつという間に成長してしまう子供たちとの大切な時間を長く取らせていただいたことに大変感謝しています。

また、妊娠・出産・介護に関する制度も充実しており、その中から、私は、休憩時間を15分短縮して、その分早く退庁できる制度を利用していました。

子供を少しでも早くお迎えに行き、夕食を一緒に作ったり、お風呂で今日の出来事を話したりすることで、仕事に復帰してから会う時間が少なくなった子供の寂しさを少しフォローできたかなと思うので、私にとっては大変貴重な時間でした。

また、産休に入るに当たって、育休中に必要な情報提供の確認をしてくださったり、育休から復帰する1か月ほど前には先輩職員の方々との座談会を開いていただき、復帰後の仕事と育児の両立について、実体験に基づくアドバイスをいただきました。

約2年ほど仕事から離れることに大変不安がありましたが、そのようなサポート体制や制度が整っているのので、出産前と変わらない気持ちで仕事をすることができています。

今も子供の急病等のための特別休暇を取らせていただくことが多々あります。

突然のことにもかかわらず、嫌な顔ひとつせず「お互い様だよ」「早くお迎えに行っておいて」と言ってくださる上司や同僚のおかげで、病気でつらそうな我が子としっかりと向き合うことができています。

助けてもらった分を誰かにお返しできるように、という気持ちがいっぱいの職場です。